



## 「芸工パフォーミングアーツ・プロジェクト」開講 — テクノロジー×身体表現が切り拓く新しい芸術場・新しい感性 —

### 概要

九州大学大学院芸術工学研究院では、地域に根差した文化資源を素材としてとりあげ、最新の芸術工学技術を活用しながら今の時代に合った表現を探究する「芸工パフォーミングアーツ・プロジェクト」を開講します。これは、実演芸術界で活動する多様な人材（パフォーマー、プロデューサー、舞台技術者など）と本研究院との共同制作によって、舞踊・演劇・音楽・美術・映像・芸術工学を効果的に融合させた新しい表現世界を切り拓くユニークな試みです。分野を超えた共同制作によって、日頃、社会の中で個別に活動する人々が一つの「場」に集い、体験を共有しながら、ここでしか創成しえない芸術創造に携わることになります。

本事業は平成 26 年度 文化庁「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」の一環で実施します。

### 背景

九州大学大学院芸術工学研究院は、これまで芸術工学を専門とする稀有な教育研究機関として、デザイン・環境・音響などに関わる最先端の工学研究をリードし、専門人材を国内外に輩出してきました。近年では、本学が蓄積してきた人的・物的リソースをさらに社会へと開きつつ、社会の様々な分野の人々や組織と連携し、21 世紀の新しい実演芸術のあり方の提示に取り組んでいます。

特に HME ユニット<sup>(※)</sup>では、芸術イベントを一過性のものとして終わらせることなく新しい文化の創成へとつなげるために、芸術創造と人材育成を一体的に行うことで、文化芸術における循環的社会的システムの構築も目指しています。

### 内容

「芸工パフォーミングアーツ・プロジェクト」は、レクチャー、セミナー、ワークショップと作品上演から構成されます。

#### ◆レクチャー

本研究院の教員と実践アドバイザーが、「芸術」、「工学」、「現場の現状と課題」、「音楽と社会」という切り口から、実演芸術の新しい可能性を問いかけます。

#### ◆セミナー

実際に行われたプロダクションについて、第一線で活躍する演出家、パフォーマー、舞台監督、プロデューサーから、「制作現場の今」について講義いただきます。

#### ◆ワークショップ+作品上演

参加者の特性をお互いに理解しながら議論を深め、企画立案から上演にいたる様々なパート（音響・身体表現・映像・照明など）の創作演習を行います。とりわけ、本研究院の最新の音響・映像技術、インタラクティブシステム等も活用しながら、新しい表現領域を開拓していきます。そして、そこで制作したパフォーミングアーツを上演します。

レクチャー、セミナーは一般の方にもご参加いただけます。また、作品上演にも観客としてご参加いただけます。

### 効果

分野を超えた共同制作は、福岡近郊で個別に活動する実演芸術界の人材間のネットワーク強化につながるばかりでなく、大学と地域をも結びます。地域の人々と連携して大学の技術を表現へと昇華させ、新しい感性を刺激する芸術創造を展開することは、大学の人的・物的リソースを社会に向けてアピールする機会となりえます。

また、本プロジェクトを通して、参加者は実演芸術に関する知の幅を広げ、共同作業の中で体験を共有しながら技術・ノウハウを修得し、新しい試みを提案していただけるようになります。ひいては、劇場・音楽堂をはじめとする様々な場を効果的に活用できる人材の育成にもつながります。

## ■今後の展開

### ◆レクチャーシリーズ【一般向け、実演家向け】定員 100名

回	日 程	テ ー マ	内 容	講 師 名
1	8月18日(月)	芸術 I	パフォーミングアーツの諸相	中村滋延 教授
2	8月22日(金)	工学 I	響きとは何か	尾本章 准教授
3	8月25日(月)	現場の現状と課題 I	鑑賞から交流・創造へ	山田修三 アドバイザー
4	8月29日(金)	芸術と社会 I	東日本大震災と芸術の「力」	中村美亜 准教授
5	12月8日(月)	芸術 II	眼と耳、空間と時間	中村滋延 教授
6	12月12日(金)	工学 II	響きを操る	尾本章 准教授
7	12月15日(月)	現場の現状と課題 II	地域の文化資源をプロデュース	山田修三 アドバイザー
8	12月19日(金)	芸術と社会 II	21世紀における芸術と公共性	中村美亜 准教授

時間：各回 19時～21時

場所：九州大学大橋キャンパス 3号館 322教室

### ◆実践セミナーシリーズ【一般向け、実演家向け】定員 100名

現在、準備中です。

### ◆実演ワークショッププログラム【実演家向け】定員 20名

9月下旬から2月初旬にかけて10回のワークショップを行い、一つの公演作品をつくりあげます。

### ◆作品上演

日時：平成27年2月7日(土) 18:00開演、8日(日) 15:00開演

場所：九州大学大橋キャンパス 多次元デザイン実験棟ホール

演目：ワークショップで制作したパフォーミングアーツ作品

## ※参考

HME (ホールマネジメントエンジニアリング) ユニット

芸術創造と人材育成の二つの部門から成る教育研究ユニットです。芸術創造部門では、時代と場所のニーズに合った新しい芸術コンテンツおよび新しい芸術場づくりを行っています。人材育成部門には、学生向けと社会人向けの参加型プログラムがあります。

(Web サイト <http://www.design.kyushu-u.ac.jp/~hme/AME/>)

### 【お問い合わせ】

芸術工学研究院 准教授 尾本 章

電話：092-553-4560

Mail：omoto@design.kyushu-u.ac.jp

# 芸工パフォーミングアーツ・プロジェクト レクチャーシリーズ 芸術の今！！



## 参加者募集！

無料

「芸工パフォーミングアーツ・プロジェクト」の一環で、全 8 回のレクチャーシリーズを開講します。  
九大芸術工学研究院の教授陣と実践アドバイザーが、芸術の「今」について様々な角度から問いかけます。

### ◆会場

九州大学大橋キャンパス 3 号館 322 教室

### ◆時間

19 時～21 時 ※初回 8 月 18 日は、18 時 30 分からガイダンスを行います。

### ◆講師・日程（夏期 4 回、冬期 4 回、各回 90 分＋質疑応答 30 分）

定員 100 名

 <p><b>中村 滋延</b> 教授 作曲、メディアアート</p> <p><b>第 1 回 芸術 I</b> 「パフォーミング・アーツの諸相」 8 月 18 日（月）</p> <p><b>第 5 回 芸術 II</b> 「眼と耳、空間と時間」 12 月 8 日（月）</p>	 <p><b>尾本 章</b> 准教授 応用音響工学</p> <p><b>第 2 回 工学 I</b> 「響きとは何か」 8 月 22 日（金）</p> <p><b>第 6 回 工学 II</b> 「響きを操る」 12 月 12 日（金）</p>	 <p><b>山田 修三</b> アドバイザー 実演芸術プロデュース</p> <p><b>第 3 回 現場の現状と課題 I</b> 「鑑賞から交流・創造へ」 8 月 25 日（月）</p> <p><b>第 7 回 現場の現状と課題 II</b> 「地域の文化資源をプロデュース」 12 月 15 日（月）</p>	 <p><b>中村 美亜</b> 准教授 音楽・音響社会学 アートマネジメント</p> <p><b>第 4 回 芸術と社会 I</b> 「東日本大震災と芸術の『力』」 8 月 29 日（金）</p> <p><b>第 8 回 芸術と社会 II</b> 「21 世紀における芸術と公共性」 12 月 19 日（金）</p>
--	--	---	--

芸工パフォーミングアーツ・プロジェクトは、レクチャー、セミナー、ワークショップを通して、実演芸術の新しい可能性を多角的に問いかけるプロジェクトです。セミナー、ワークショップについては別紙リーフレットもしくはホームページでご案内しています。リーフレット送付ご希望の方はお問い合わせください。

# ◆レクチャー内容

<b>第1回 芸術Ⅰ</b> 「パフォーマンス・アーツの諸相」  現代のパフォーマンス・アーツの特徴は「領域横断」にあります。じつはそこにテクノロジーが様々に関わっています。その例のいくつかを、歴史的経緯を含め、紹介します。	<b>第2回 工学Ⅰ</b> 「響きとは何か」  ホールなどの空間で感じる「響き」とは何なのでしょう。またしばしば聞かれる「残響時間」とはどのように決められているのでしょうか。室内における音響現象の基礎を学びながら、音の響きについて考えます。	<b>第3回 現場の現状と課題Ⅰ</b> 「鑑賞から交流・創造へ」  実演芸術の世界でも後継者の育成と観客の開拓は昔も今も深刻な課題です。その解決へ向けて各組織団体は、どんな活動に励んできたのでしょうか。福岡都市圏での取組み事例を紹介すると同時に活動の変遷も考えていきます。	<b>第4回 芸術と社会Ⅰ</b> 「東日本大震災と芸術の『力』」  東日本大震災の後、「アートの力」「音楽の力」という言葉とともに、さまざまな芸術活動が展開されました。これらの活動を振り返りながら、芸術にできること・できないこと、芸術の「力」とは何かについて考えていきます。
<b>第5回 芸術Ⅱ</b> 「眼と耳、空間と時間」  「領域横断」は、これまで個別にとらえられていた要素、例えば視覚と聴覚、空間構成と時間構成、抽象と具象などを融合することになります。その融合の可能性を先行例の分析紹介を通して探ります。	<b>第6回 工学Ⅱ</b> 「響きを操る」  響きを見たい、あるいは自由自在に操りたい。こんな夢みたいなことが、信号処理技術の進歩に伴って、少しずつ現実に近づいています。建築音響、室内音響の最前線の話題を紹介します。	<b>第7回 現場の現状と課題Ⅱ</b> 「地域の文化資源をプロデュース」  実演芸術といえども分野形態は多種多様です。伝統芸能から先進的舞台芸術までプロデュースの手法についてマニュアルは無いに等しいでしょう。文化資源を活かした企画事例から、その手法、留意事項など解き明かしていきます。	<b>第8回 芸術と社会Ⅱ</b> 「21世紀における芸術と公共性」  芸術は誰のためのものか？芸術が一部の裕福な人や国家のものでないことは、もはや自明といえるでしょう。では、個人の消費する商品なのでしょうか？今日における芸術と公共性の関係について問いなおします。

HME（ホールマネジメントエンジニアリング）ユニットは、芸術創造と人材育成の二つの部門から成る教育研究ユニットです。芸術創造部門では、時代と場所のニーズに合った新しい芸術コンテンツおよび新しい芸術場づくりを行っています。人材育成部門には、芸術・工学・マネジメントの知識を修得できる学生向けと社会人向けの参加型プログラムがあります。両部門が相互に組み合わせることにより、一つの芸術創造実践が多様な芸術実践へと展開していくような循環的社会システムの構築を目指しています。

## 申込み方法

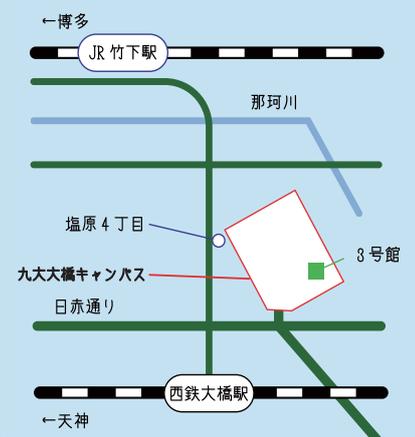
下記の項目を明記のうえ、メールかファックスあるいはホームページからお申込みください。

(1) 名前（ふりがな）	(2) 年齢
_____	_____
(3) 住所	
_____	
(4) メールアドレス	(5) 日中連絡のつく電話番号
_____	_____
(6) 所属（任意記入）	
_____	

メールアドレス：[hme@design.kyushu-u.ac.jp](mailto:hme@design.kyushu-u.ac.jp) ファックス：092-553-4552

ホームページ：<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/~hme/AME/h26.html>

## アクセス



## 申し込みメールフォーム

[http://www.design.kyushu-u.ac.jp/~hme/AME/event2014\\_mail/](http://www.design.kyushu-u.ac.jp/~hme/AME/event2014_mail/)



## 申し込み方法

①希望のコースをお選びください。

(a) レクチャーシリーズ (b) 実践セミナーシリーズ (c) 実演ワークショッププログラム

※(a) (b) はどなたでも併せてお申し込みできます。

※(c) をお申し込み希望の方は (a) (b) シリーズも併せて受講することをおすすめします。

②希望のコースを添えて下記の項目を明記のうえ、メールかファックスあるいはホームページからお申込みください。

(1) 希望コース (2) 名前 (3) 年齢 (4) 住所 (5) メールアドレス (6) 日中連絡のつく電話番号

(7) 所属\* (8) 専門\* (9) 活動歴\*

※(a) (b) シリーズをご希望の方は (7) (8) (9) は任意記入です。

※(c) をお申し込み希望の方は (7) (8) (9) も必ずご記入ください。応募者の経験や実績を加味して、HME実施委員会が選考を行う場合があります。選考後、個別にご連絡いたします。

メールアドレス：[hme@design.kyushu-u.ac.jp](mailto:hme@design.kyushu-u.ac.jp) ファックス：092-553-4552

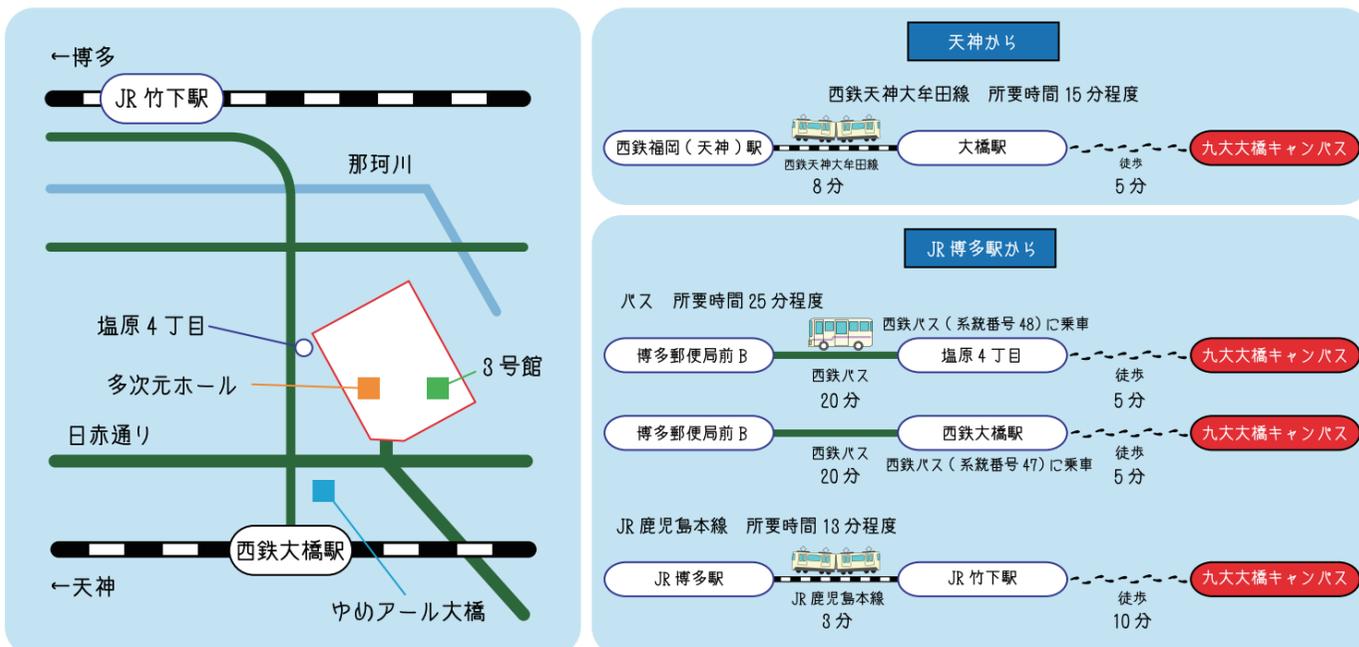
ホームページ：<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/~hme/AME/h26.html>

## HMEユニットとは

HME（ホールマネジメントエンジニアリング）ユニットは、新しい芸術形態の創造と、それを支えるファシリテーター的人材の育成を一体的に行う教育研究ユニットです。九州大学大学院芸術工学研究院は、これまで芸術工学を専門とする希少な教育研究機関として、音響・デザイン・環境などに関わる最先端の工学研究をリードし、専門人材を国内外に輩出してきました。HMEユニットでは、本学が蓄積してきた人的・物的リソースをさらに社会へと開きつつ、社会の様々な分野の人々や組織と連携し、21世紀の新しい実演芸術のあり方を提示していきます。また、芸術イベントを一過性のものとして終わらせることなく、新しい文化の創成へとつなげるために、ファシリテーター的役割を担う人材の育成を並行して行い、循環的社会システムを構築していくことも目指しています。

【ファシリテーター】このプロジェクトでは、その芸術創造実践に携わる様々な専門人材の調整を果たしながら、「場」を効果的に活用し、上演コンテンツの芸術的価値を最大限に高める企画を立案・運営できる人材を指します。

## アクセス



【お問い合わせ先】

九州大学 大学院 芸術工学研究院 ホールマネジメントエンジニアリングユニット

815-8540 福岡市南区塩原 4-9-1 九州大学大学院芸術工学部 HME 研究室 尾本 気付

TEL/FAX 092-553-4552 MAIL [hme@design.kyushu-u.ac.jp](mailto:hme@design.kyushu-u.ac.jp)

URL <http://www.design.kyushu-u.ac.jp/~hme/AME/>



平成 26 年度 文化庁 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業（特色ある文化芸術活動推進事業）



九州大学 九州大学大学院芸術工学研究院 HME ユニット 主催



# 芸工パフォーマンス・アートプロジェクト

無料

## 参加者募集!

(a) レクチャーシリーズ

(b) 実践セミナーシリーズ

(c) 実演ワークショッププログラム

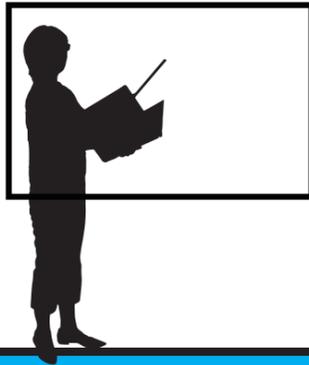
最先端テクノロジーが創出する芸術場で、様々な角度から新しい表現を探求してみませんか？

### 募集対象

ダンス・演劇・音楽等実演芸術に携わっている方

(ダンサー、俳優、演奏家、舞台技術者、演出家、振付家、映像作家、メディアアーティスト、作曲家、プロデューサー など)

共催：公益財団法人 福岡市文化芸術振興財団



# 芸工パフォーマンス・プロジェクトとは？

「今日、実演芸術に求められていることは何か？」「最先端の工学技術を用いたら何が出来るか？」

芸工パフォーマンス・プロジェクトは、レクチャー、セミナー、ワークショップを通して、実演芸術の新しい可能性を多角的に問いかけるプロジェクトです。

各シリーズ・プログラムともにお申し込みが必要です。応募方法は、裏面をご覧ください。



## (a) レクチャーシリーズ

一般向け

実演家向け

定員 100 名

(夏期4回、冬期4回、各回90分+質疑応答30分)

様々な芸術が巷に溢れる今、芸術とは何を指すのでしょうか？

工学技術が日々進歩し続ける今、どのような表現が可能なのでしょうか？

多くの情報が飛び交う今、本当に興味をひく企画・広報とはどのようなのでしょうか？

芸術と経済的視点を切り離しえない今、芸術にはどのような仕組みが必要なのでしょうか？

九大芸術工学研究院の教授陣と実践アドバイザーが、芸術の「今」について様々な角度から問いかけます。

### ◆レクチャー会場

九州大学大橋キャンパス 3号館 322 教室

### ◆時間

19 時～ 21 時

※初回 8 月 18 日は、18 時 30 分からガイダンスを行います。

### ◆講師



中村 滋延  
教授

作曲、メディアアート

第 1 回 芸術 I  
「パフォーマンス・アーツの諸相」  
8 月 18 日 (月)

第 5 回 芸術 II  
「眼と耳、空間と時間」  
12 月 8 日 (月)



尾本 章  
准教授

応用音響工学

第 2 回 工学 I  
「響きとは何か」  
8 月 22 日 (金)

第 6 回 工学 II  
「響きを操る」  
12 月 12 日 (金)



山田 修三  
アドバイザー

実演芸術プロデュース

第 3 回 現場の現状と課題 I  
「鑑賞から交流・創造へ」  
8 月 25 日 (月)

第 7 回 現場の現状と課題 II  
「地域の文化資源をプロデュース」  
12 月 15 日 (月)



中村 美亜  
准教授

音楽・音響社会学  
アートマネジメント

第 4 回 芸術と社会 I  
「東日本大震災と芸術の『力』」  
8 月 29 日 (金)

第 8 回 芸術と社会 II  
「21 世紀における芸術と公共性」  
12 月 19 日 (金)

## (b) 実践セミナーシリーズ

一般向け

実演家向け

定員 100 名

実際に行われたプロダクションについて、第一線で活躍する演出家、パフォーマー、舞台監督、プロデューサーから、「制作現場の今」をお話していただきます。普段、知ることのできない制作プロセスについて学べるまたとない機会です。

セミナー内容の詳細は追って WEB サイトでお知らせします。



## (c) 実演ワークショッププログラム

実演家向け

定員 20 名

10 回のワークショップを通じて、一つの公演をつくりあげていきます。

参加者の特性をお互いに理解しながら議論を深め、企画立案から上演にいたる様々なパート（音響・身体表現・映像・照明など）の創作演習を行います。とりわけ、九大芸工の最新の音響・映像技術、インタラクティブなシステム等も活用しながら、新しい表現領域の開拓をしていきます。

### ◆応募資格

- ・分野を超えた共同制作に関心のある方
- ・ダンス・演劇・音楽等実演芸術に携わっている方（ダンサー、俳優、演奏家、舞台技術者、演出家、振付家、映像作家、メディアアーティスト、作曲家、プロデューサー、マネージャーなど）

### ◆担当

ワークショップディレクター 中村滋延  
ワークショップアドバイザー 山田修三

### ◆会場

九州大学大橋キャンパス多次元デザイン実験棟ホール・工作工房  
ゆめアール大橋

### ◆日程

初回レクチャー終了後、21 時よりワークショップの説明会を行いますのでご参加ください。その際、ワークショップの日程を決定します。

### ◆ワークショップの進め方 (内容は進行状況に応じて変更になる場合があります。)



### ワークショップディレクターからのメッセージ

舞踊・演劇・音楽・美術・映像・芸術工学の融合によって、福岡の地域性を活かした身近でかつ先進的なパフォーマンスを作りあげていきます。それは多様な専門領域の人が共同制作することではじめて可能になる表現世界です。これまでに知らなかった表現世界や専門領域と出会うことはとても有益な体験です。制作参加者にとっては意識を変革する体験となるような、そして鑑賞者にとっては「目から鱗が落ちる」想いをもたらすようなパフォーマンスをめざします。失敗を恐れずに果敢にチャレンジしていきましょう！